

日交研シリーズ A-680

平成 27 年度自主研究プロジェクト

「サプライチェーンの空間的分散化とレジリエンスに関する研究」

刊行：2017 年 2 月

サプライチェーンの空間的分散化とレジリエンスに関する研究

The Study on Spatial Dispersion of Supply Chains and the Resilience

主査：黒田 達朗(名古屋大学大学院環境学研究科教授)

Tatsuaki KURODA

## 要 旨

2011 年、多くの日本企業が、東日本大震災やタイの大洪水のために連続的な損失を受けた理由として、空間的に拡散したサプライチェーンに依存していたことに着目し、企業の空間的分散を災害等の局所的リスクの面から再考するため、平成 25 年度の自主研究プロジェクト「階層的サプライチェーンの空間的リスクと交通ネットワークのあり方に関する研究」および平成 26 年度の自主研究プロジェクト「空間的リスクとサプライチェーンを考慮した交通幹線の復旧策に関する研究」において、主として以下の結論を得た。より拡散したサプライチェーンでは、中間財の生産者の期待損失は低下するが、最終財の生産者の期待損失は増加する。

これらの結果については、さらに以下の点について確認が必要と考えられる。第 1 に、生産者がリスクに対して中立的であるという仮定を置いているが、現実にはリスク回避的である可能性が高く、その影響が実際の分散立地に反映しているのではないか。第 2 に、分散・集中よりも在庫の確保が最善のリスク回避策ではないかという点である。

他方では、実際の調達実務に通じたコンサルタント等により、東日本大震災等における企業の対応の実態を報告した文献などが公表されている。また、2016 年 4 月に発生した熊本地震で被災した企業の復旧状況等を観察することからも、現実的な BCP の課題を一定程度明らかにすることができる。

キーワード：フラグメンテーション、サプライチェーン、局所的リスク、経済的レジリエンス、ハザード、災害

Keywords : Fragmentation, Supply Chain, Location Risk, Economic Resilience, Hazards, Disasters